

要 約

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	呉 丹
主 論 文 題 名 Fatty liver index predicts the development of hypertension in a Japanese general population with and without dysglycemia (脂肪肝指数は血糖異常の有無にかかわらず日本一般集団における高血圧の発症を予測する)				
(内 容 の 要 旨) 脂肪肝はインスリン抵抗性を介して糖尿病の発症に関連していると考えられており、さらに、複数の研究で脂肪肝が高血圧の発症リスク増加と関連することが示唆されている。しかし、脂肪肝と高血圧の関連がインスリン抵抗性を介しているか、またこの関連が血糖異常と独立しているかは未だ明らかになっていない。 脂肪肝の診断においては肝生検がゴールドスタンダードであるが、臨床的には非侵襲的な腹部超音波が用いられている。しかし、腹部超音波検査が大型健康検査やスクリーニングにおいてすべての患者に実施するのは困難である。そのため、BMI、ウエスト周囲径、空腹時血清トリグリセリド、および γ -グルタミルトランスフェラーゼに基づく簡便な指標である脂肪肝指数 (fatty liver index: FLI) は、特に内臓脂肪の蓄積が高いアジア人集団において有用性が認められている。複数の研究で、FLIが高血圧発症の良好な予測因子であることが報告されているが、血糖異常がない場合にも適用できるかどうかは未解明である。そこで本研究では、FLIと高血圧の発症との関連を検討し、さらにその関連を血糖異常の有無に基づいて解析した。 2013年度に特定健康診査を受診した高血圧のない男女3114名（男性1036名、女性2078名）を2018年まで追跡した。参加者はFLIの三分位（低、中、高）および血糖異常の有無に基づいて6つのグループに分けられた。Cox比例ハザードモデルを用いて、性別ごとに各グループのハザード比を推定する。 平均追跡期間2.8年の間に、3114名中160名が高血圧を発症した。基準群として血糖異常のない低FLI群を使用した場合、共変量で調整した後、収縮期血圧を除いて、血糖異常の有無にかかわらず、高FLI群で高血圧の発症リスクが男女ともに増加した。さらに、女性では収縮期血圧を調整した後もこの関連が認められた。 本研究では、日本の一般住民を対象に、FLIが血糖異常の有無にかかわらず高血圧発症リスクと関連することを確認した。この結果は、血糖が正常であってもFLIが高い人々に対して高血圧予防のための管理が必要であることを示唆している。特に、血糖異常を伴う人々では、FLIと高血圧発症リスクの関連がより顕著であり、リスクの高い対象者を予測する上で有用であると考えられる。				